

Handwritten Japanese text in the upper left corner of the left page.

Handwritten Japanese text in the lower left corner of the left page.

Large handwritten Japanese characters in the center of the left page.

Red rectangular stamp with Japanese characters on the left page.

Red-bordered label with the text: ~ 13, 3730, 4



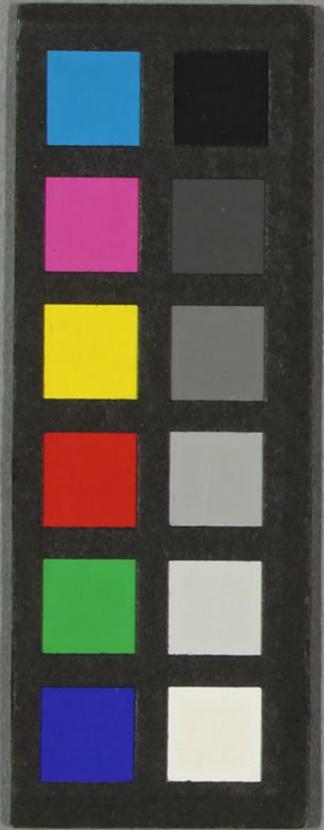
Handwritten Japanese text in the upper right corner of the right page.

Large handwritten Japanese characters in the center of the right page.

Red rectangular stamp with Japanese characters on the right page.

Red-bordered label with the text: ~ 13, 3730, 3





門 13  
號 3730  
卷 3

其由縁

部 依

一編

と冊

弘化丁未

春

一筆茶主人  
一陽齋  
鶴屋喜之助



岐迷

公道人情兩是非  
若依公道人情欠

人情公道最難為  
順了人情公道虧

一

彼墨翟之岐道ふら泣涕も善惡邪正のそとありて亦  
此支を想へるり從來善人の欲する所悪人の憎む処  
誰は是非を分とざらん只是非義の情不縁の欲迷ふ  
故に岐道不惑よのそ克其道理を通曉境に至るの  
最稀るり然れば童蒙兒女の為好道理とも論んを果  
敢るは策子譚ふ情態を以て善ふ薦め悪と懲り他を  
誠め已と警言る一端ともあるんを初輯不嗣て二編の稿と脱るのそ

弘化丁未新春 一筆茶主人誌

部 二



中島七右衛門の忠告

かんの君乃おん  
けしきいん  
なれまよひを

大将をい  
やと  
あま  
い

中島  
このきりきりとあやうしとも  
くえまよひを 中島おのひんして  
年よりてまよひをぬりぬらふ云云

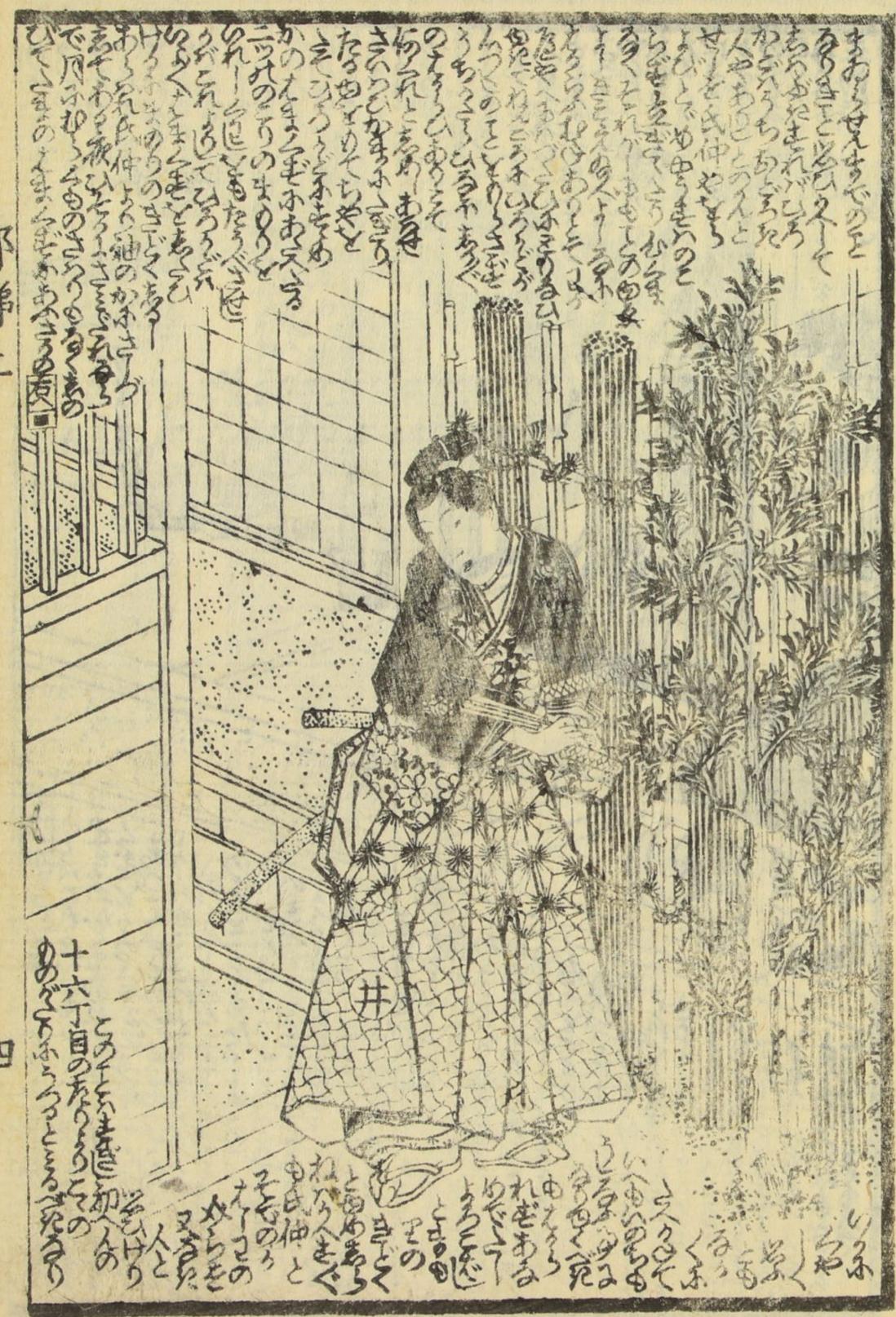


宝島をちめ  
濱葛 初て室町の  
御所ふ出候

いうのん  
さると  
あま  
おま  
なれ







まあらせえすやのこ  
あつたまればい  
かたあちあち  
人あちあち  
せつをい  
あつたまればい  
かたあちあち  
人あちあち  
せつをい

十六丁目の  
あつたまればい  
かたあちあち  
人あちあち  
せつをい

第 二

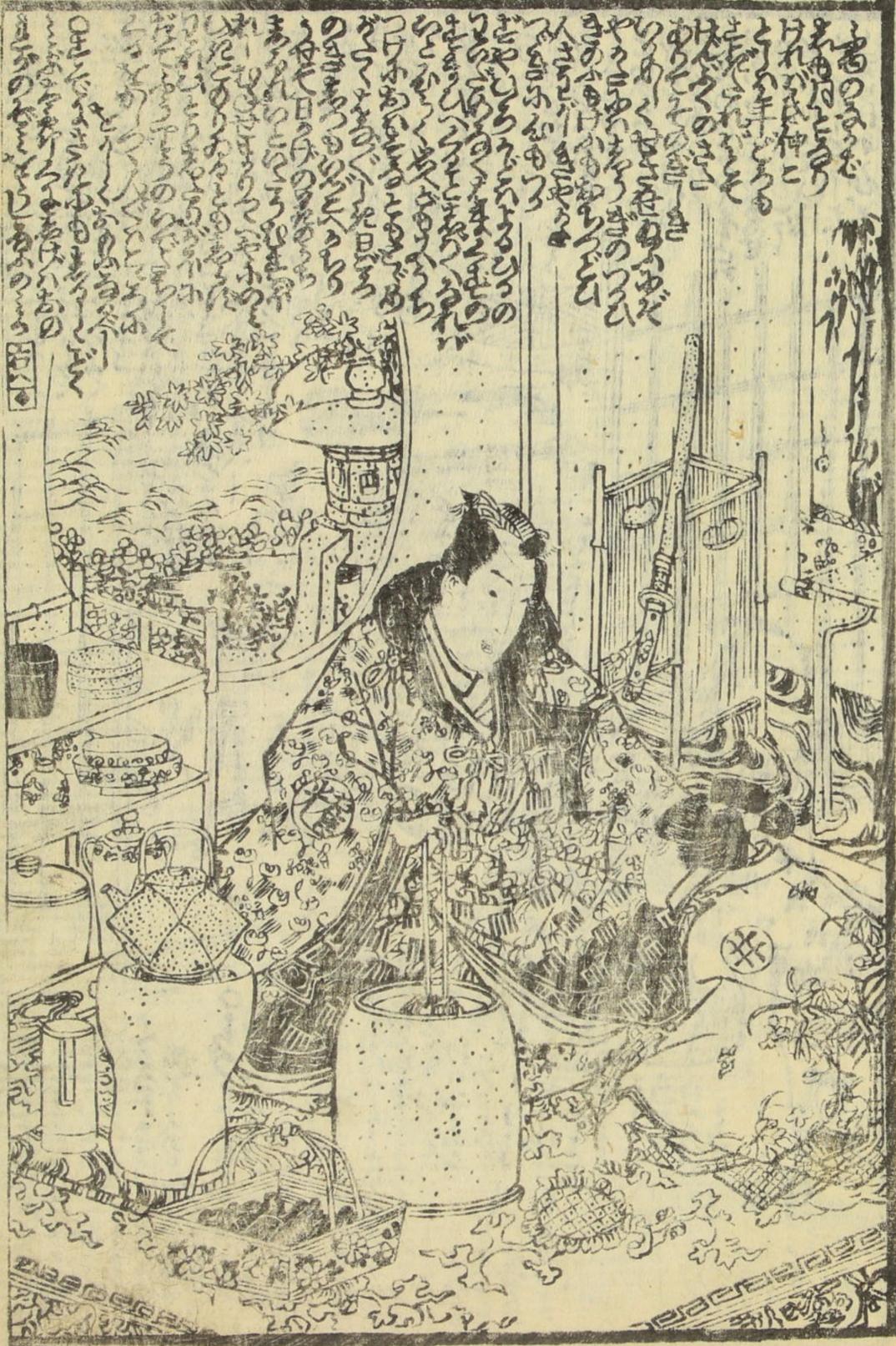
四



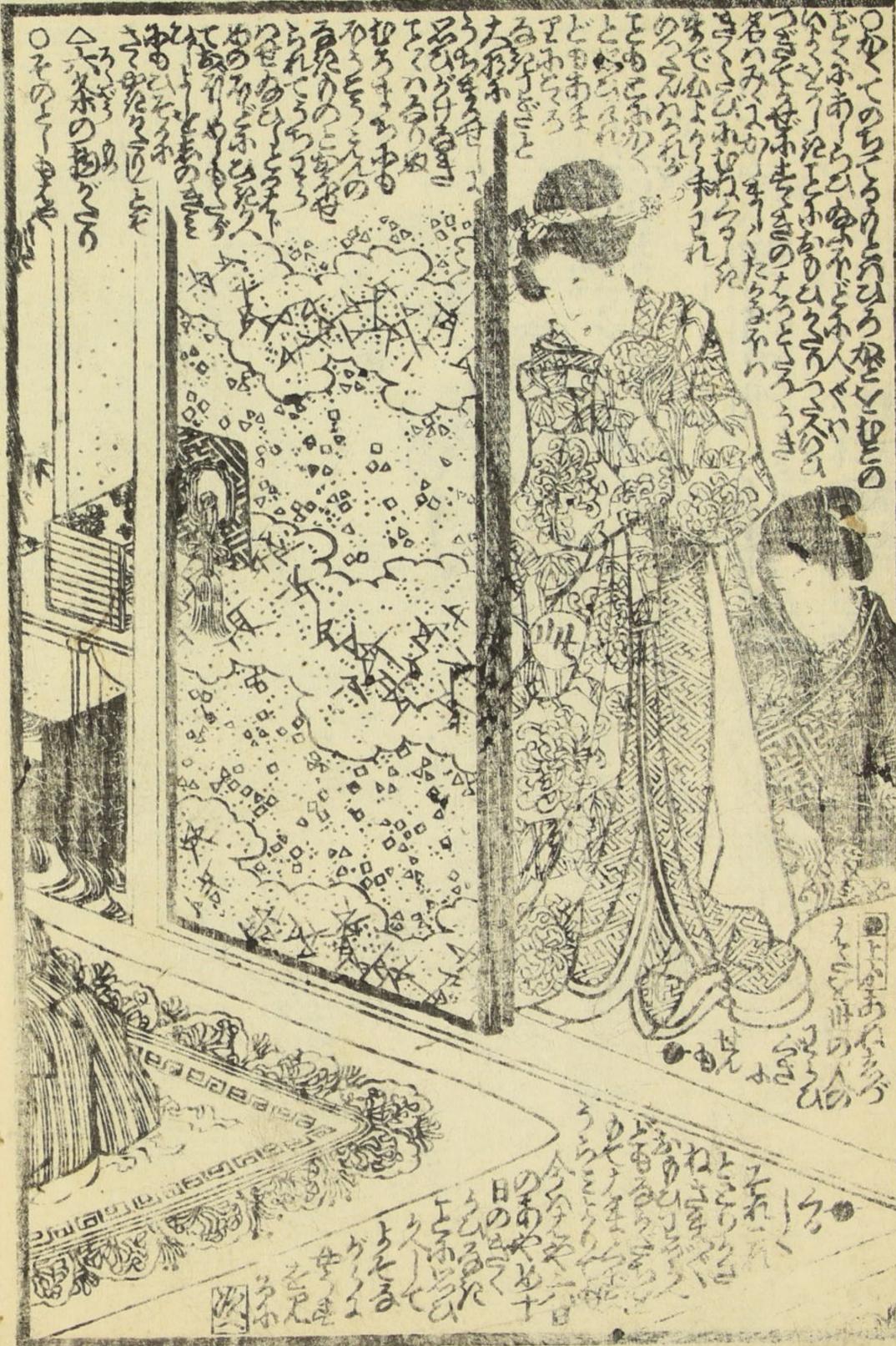
あつたまればい  
かたあちあち  
人あちあち  
せつをい

あつたまればい  
かたあちあち  
人あちあち  
せつをい





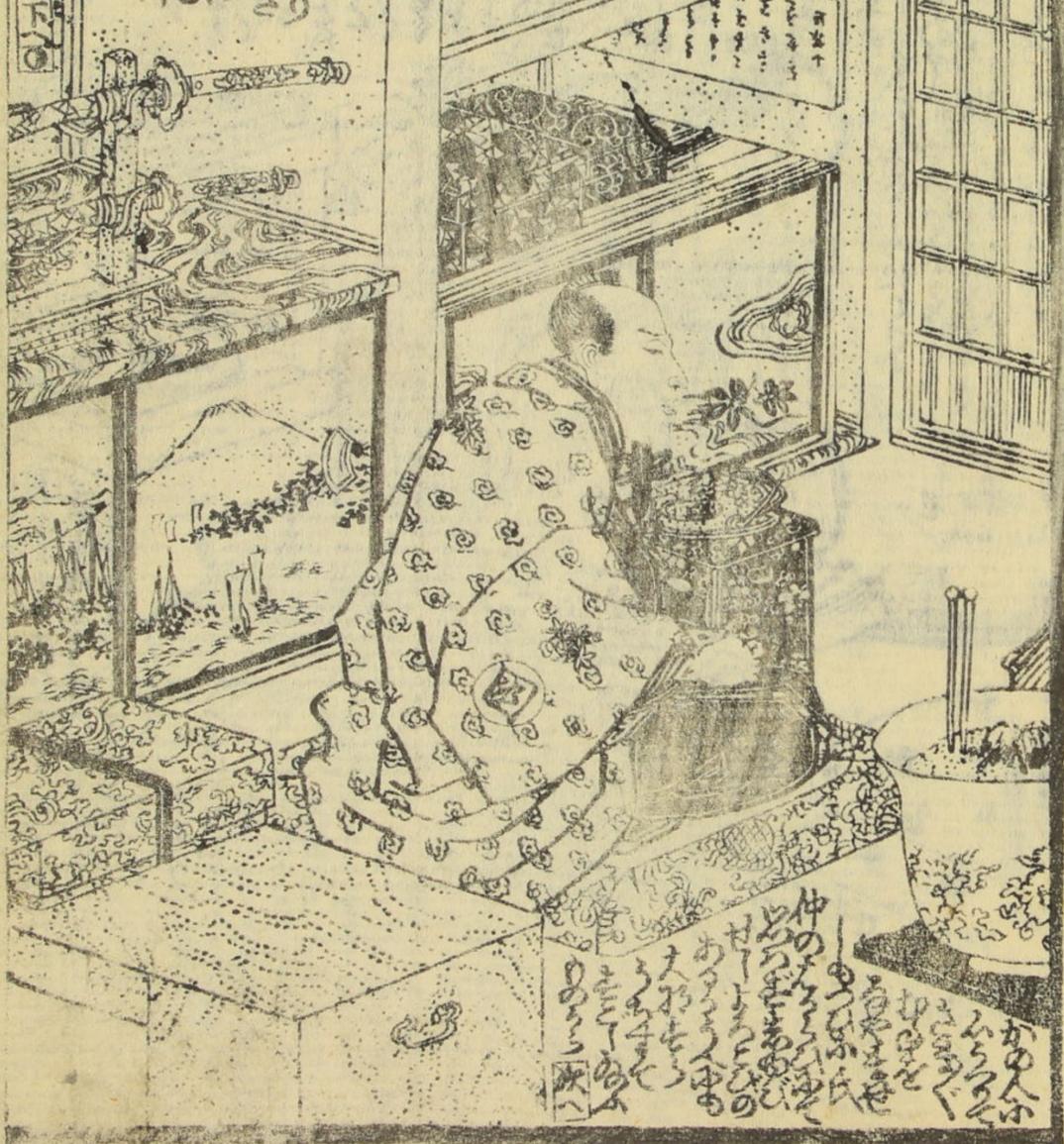
湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても



湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても

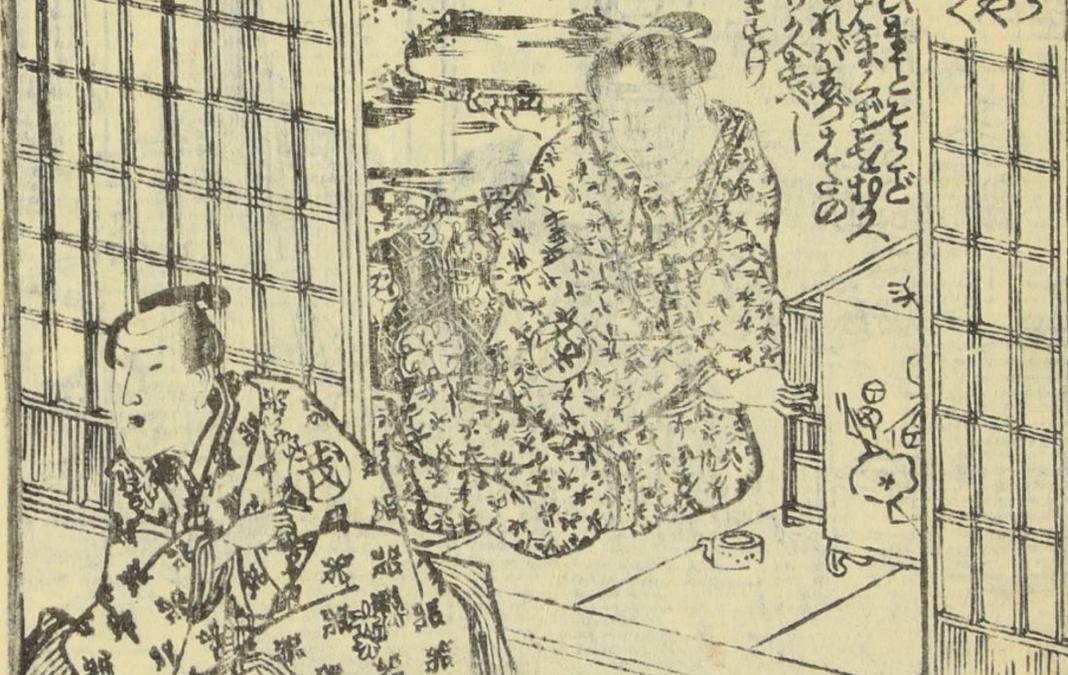
湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても  
 湯のあつても  
 火のあつても

ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ



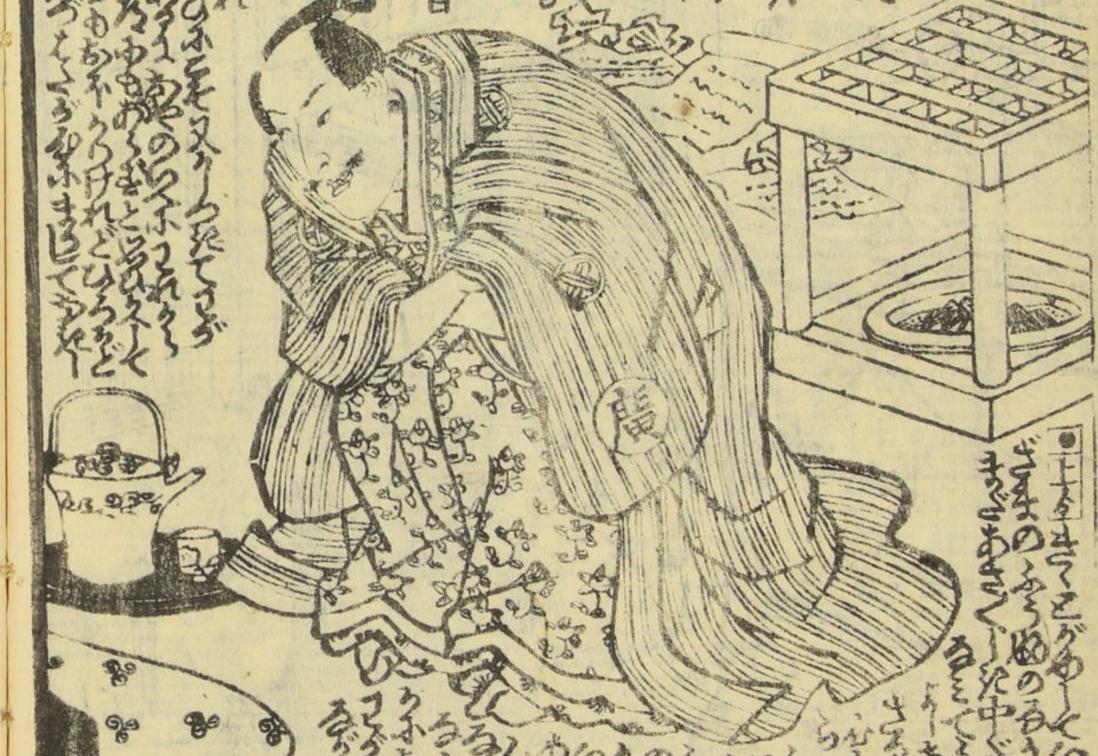
かのん  
おひら  
おひら  
おひら  
おひら  
おひら

ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ



○上か  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ  
ろすんろさ  
とややのひ  
あまやま  
とややのひ

ついでに... けしき... ありて... けしき... ありて... けしき... ありて...

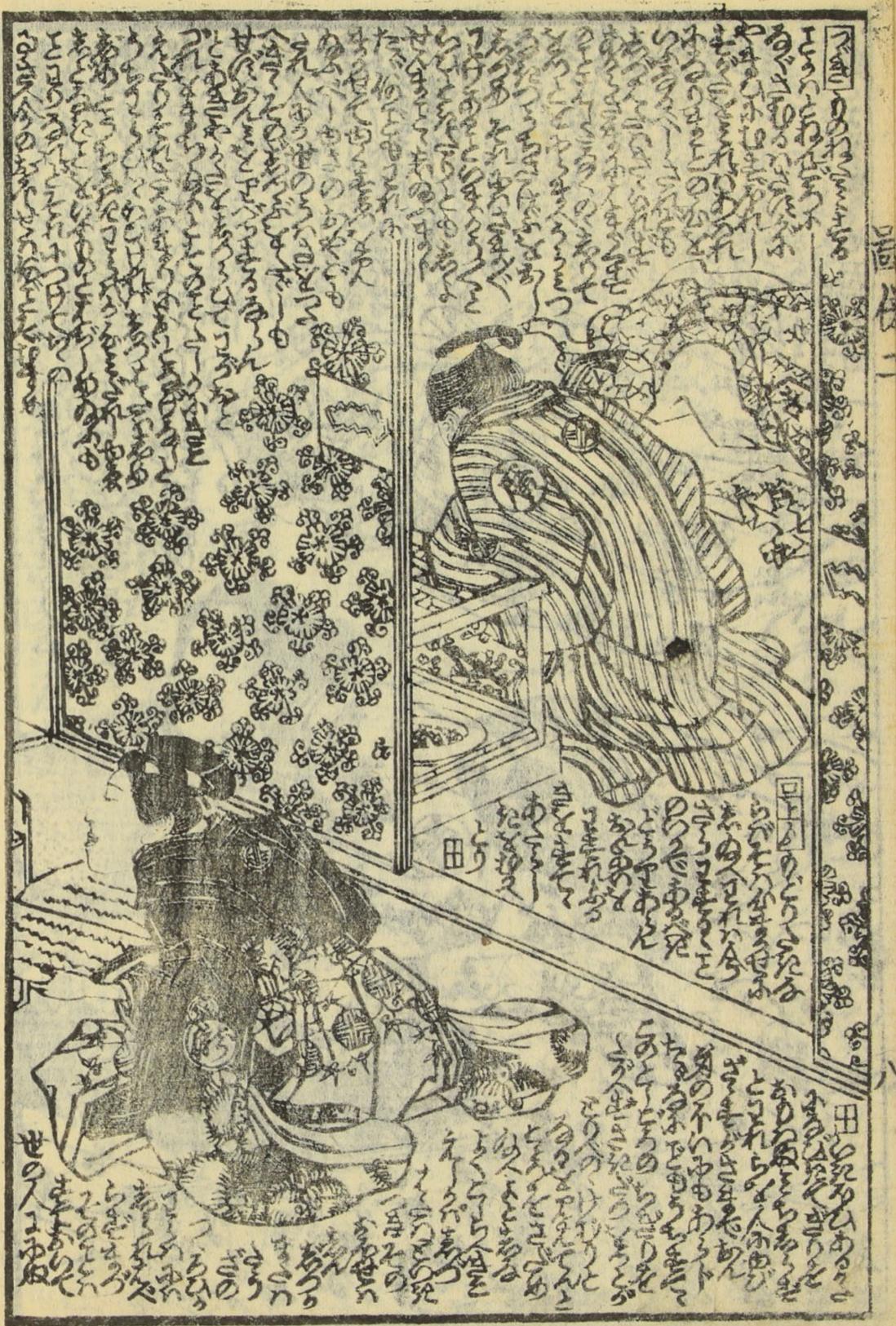


お茶... けしき... ありて... けしき... ありて... けしき... ありて...

ついでに... けしき... ありて... けしき... ありて... けしき... ありて...



お茶... けしき... ありて... けしき... ありて... けしき... ありて...





ついでに... 菊壇養種... 初篇全一冊

一筆茶作  
曲豊國画

○作者曰け... 菊壇養種... 初篇全一冊

新編金瓶梅十集

全部

曲亭馬琴作  
一陽齋豊國画

女郎花五色石臺

二編 曲亭馬琴作  
三編 一陽齋豊國画

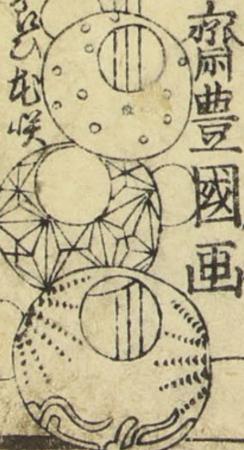
児雷也豪傑譚

八編 美圖垣笑顔作  
九編 一陽齋豊國画

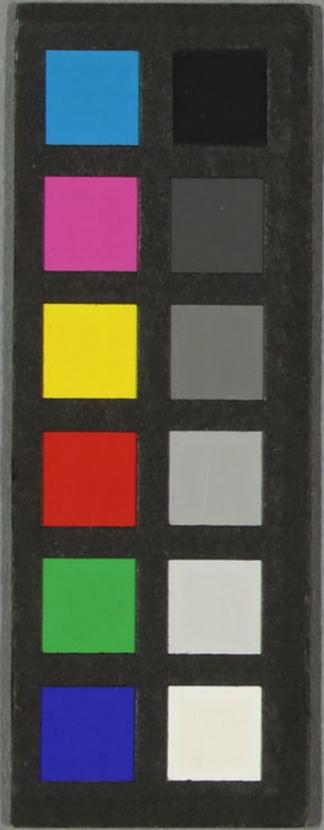
菊花壇養種

初篇全一冊

菊壇養種の風流... 美圖垣笑顔作







~ 13  
3730  
4



門 13

其紫郡の境二編  
下丹

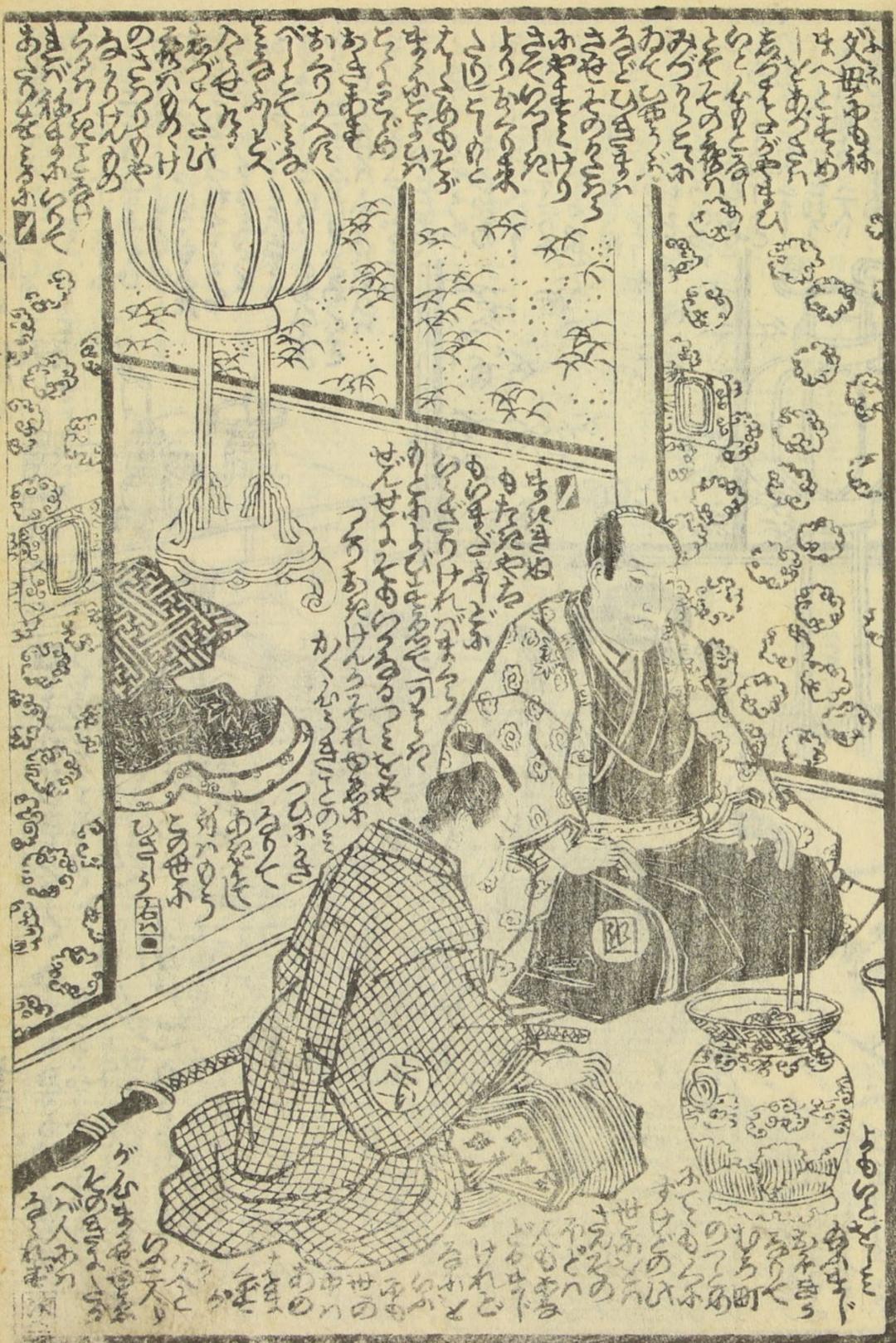
一筆筆主人作  
一陽南豊回函  
山居堂主人

前編下の巻續

△湯佐の館のめづり

この湯佐の館のめづり  
は湯佐の館のめづり  
は湯佐の館のめづり  
は湯佐の館のめづり  
は湯佐の館のめづり





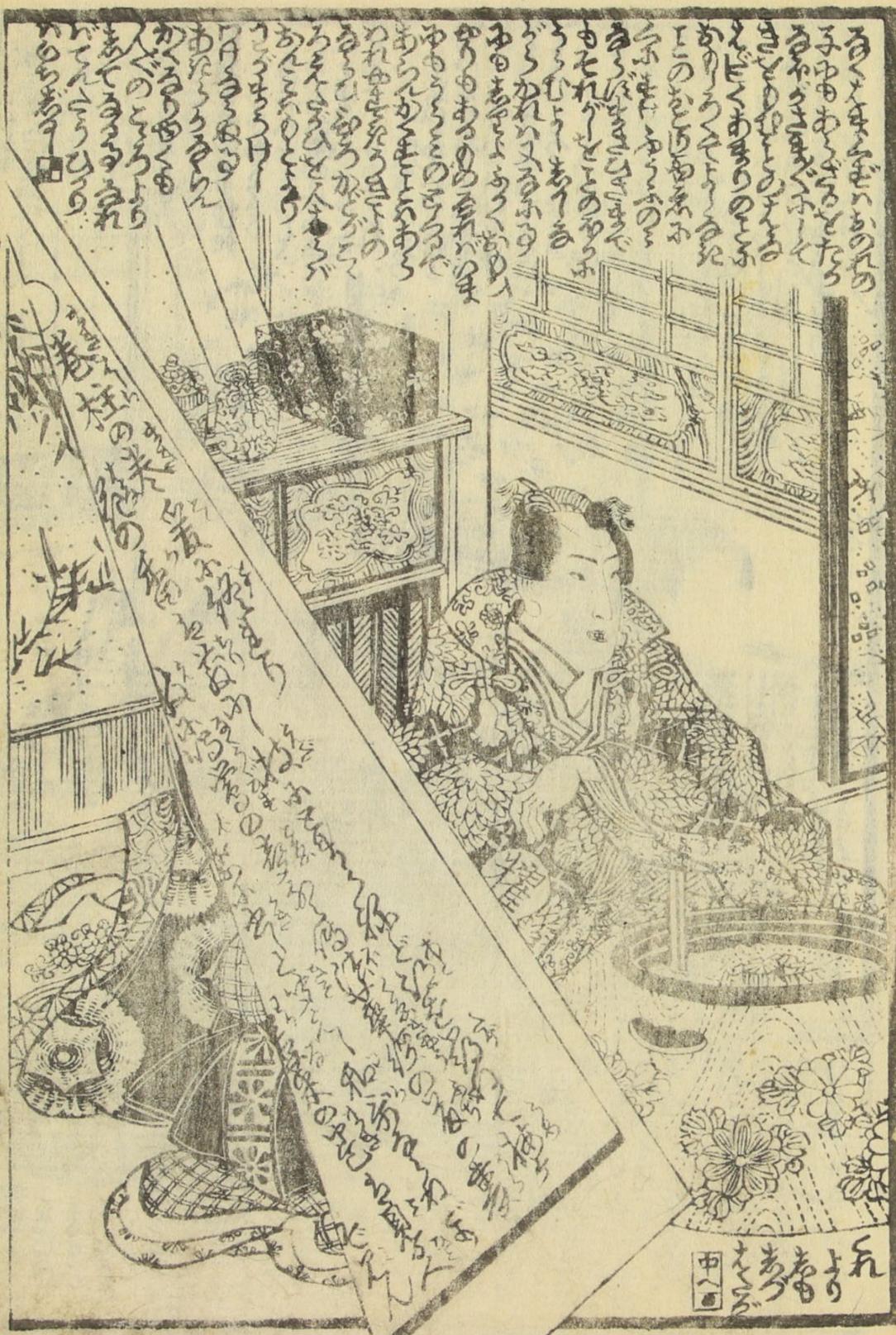










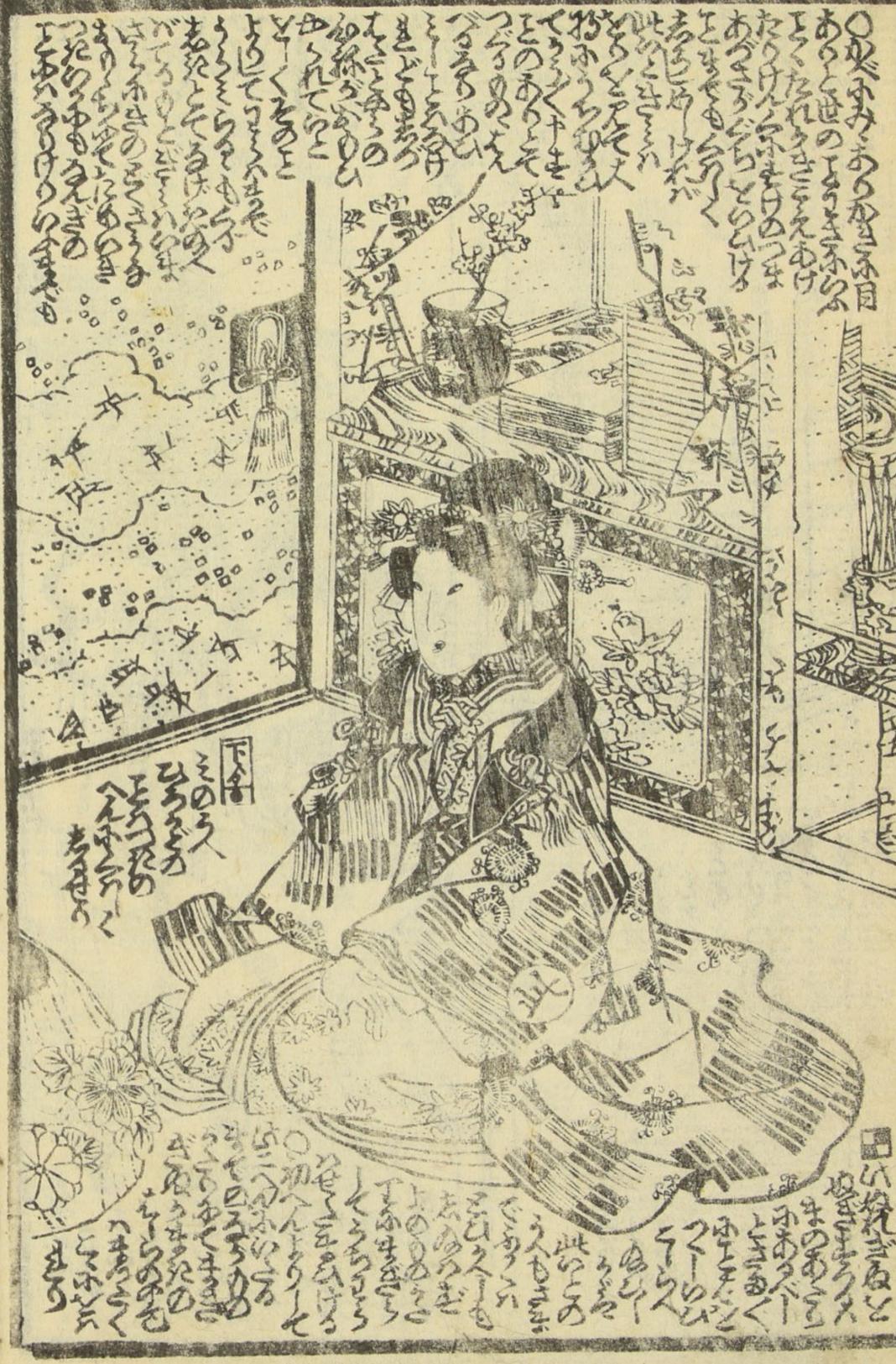


ありてはまはせしあひのちの  
 子ゆあひはるどたろ  
 るやうなまふとく  
 ありてはまはせしあひのちの  
 子ゆあひはるどたろ  
 るやうなまふとく

第の第二

十九

ありてはまはせしあひのちの  
 子ゆあひはるどたろ  
 るやうなまふとく



ありてはまはせしあひのちの  
 子ゆあひはるどたろ  
 るやうなまふとく

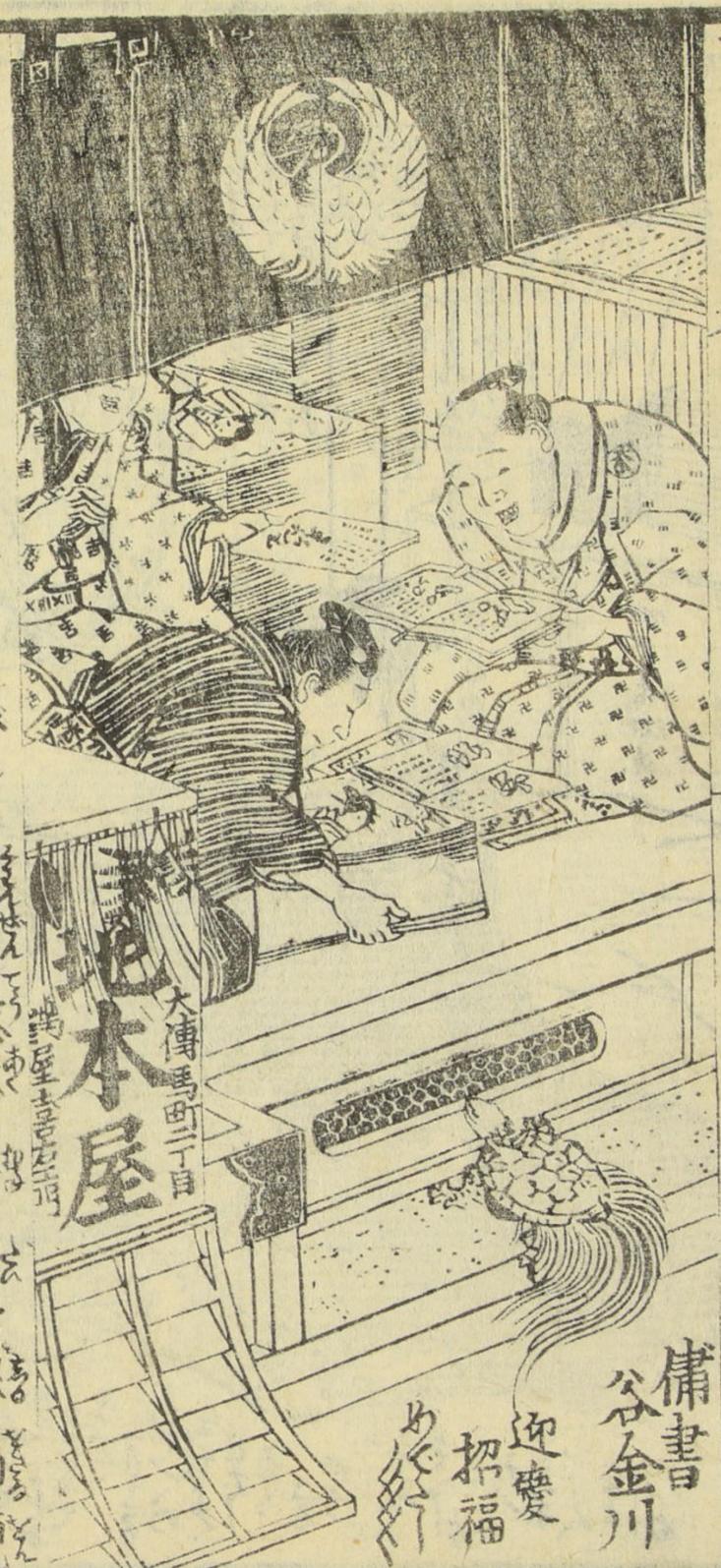
第の第二

ありてはまはせしあひのちの  
 子ゆあひはるどたろ  
 るやうなまふとく

ありてはまはせしあひのちの  
 子ゆあひはるどたろ  
 るやうなまふとく



一陽齋豐國画一筆奔主人戲作



其由縁鄙佛第三編

大傳馬町二丁目  
地木屋  
勸善懲惡の上日と一恣一恣  
女輩のたゞそとにあらざりて  
ちさちの糸紙抄流を傳へて出敷社

傭書  
谷金川  
迎慶  
招福  
めいり

新編金瓶梅十集

曲亭馬琴作  
一陽齋豐國画

女郎花五色石臺

初編曲亭馬琴作  
四冊一陽齋豐國画

兎雷也豪傑譚七篇

美圖垣笑顔作  
一陽齋豐國画

菊花壇養種

初篇全一冊

菊花壇養種の記述... 初編曲亭馬琴作... 美圖垣笑顔作... 一陽齋豐國画



